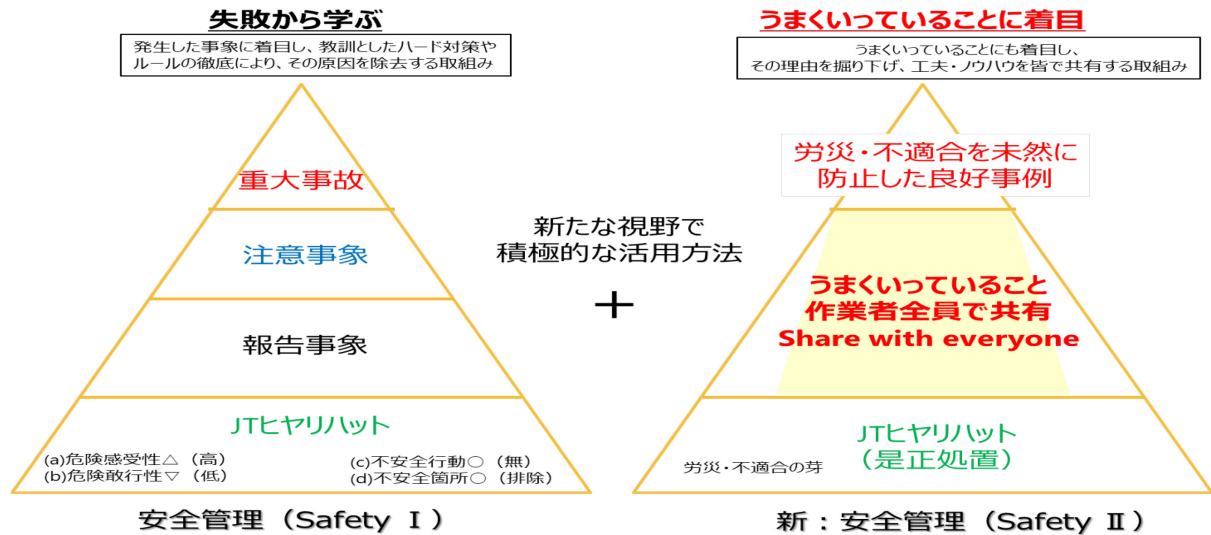


労災未然防止活動 ～不安全行動及び不安全環境のリスク排除～

河野 亮



当社は、労災防止活動として従来の再発防止活動である安全管理 (Safety I) に加え、事前に潜在リスクを想定し、危険感受性の向上と不安全環境の排除により未然防止することを重要課題としている。その施策として作業後のエンドミーティング実施によるヒヤリハットの抽出と、不安全行動・環境等の CR (コンディションレポート) 登録を行っている。これらの労災を未然防止する活動の中から「うまくいっていることを共有する」に着目した新：安全管理 (Safety II) を導入開始した活動を紹介する。

キーワード：安全管理、不安全行動、不安全環境、危険感受性、危険敢行性

1. はじめに

当社のインシデント事象は、2010 年度以降から毎年十数件発生している。従来の「失敗から学ぶ」再発防止策である安全管理 (Safety I) では、類似災害は防止出来るが、想定外の事象・潜在リスクを顕在化出来ないことが弱みであった。

これを補うため、「物事がうまくいっていること」に着目する新：安全管理 (Safety II) の手法に基づき、作業後にうまくいったこと等を振り返るミーティングとして「エンドミーティング」を導入した。エンドミーティングは、作業員全員でリスクを共有する活動であり、危険感受性の向上・危険敢行性の低減を目的とする (図 1 参照)。また、当社独自の活動として企業風土のコミュニティ構築を考慮したコミュニキャンペンを実施した。本稿ではこれらの活動内容について紹介する。

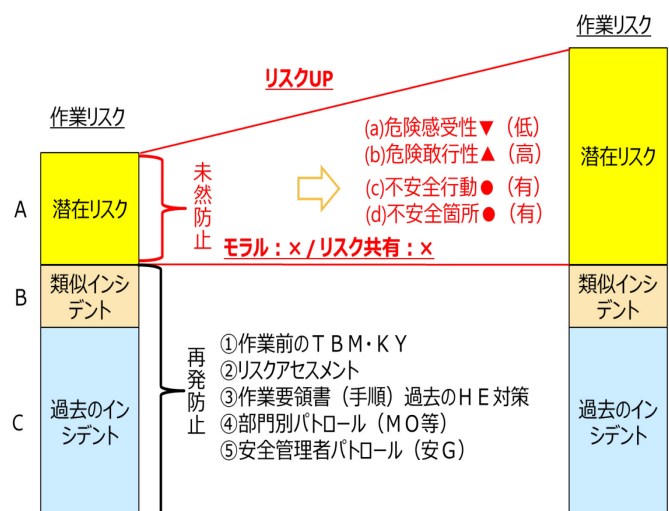


図 1 現場作業リスクと未然防止・再発防止の活動

2. 新:安全管理 (Safety II) を目指す取組み

2.1 安全管理

日本原子力学会誌の安全管理[1]を基に、作業後のエンドミーティングにて従来の再発防止活動である安全管理 (Safety I) の潜在リスクの抽出や「うまくいっていることを共有する」に着目した新:安全管理 (Safety II) に取り組んできた。これまでの安全観は「事故が起きないこと」、「悪い結果を避けること」だったのに対し、これからは、「ものごとがうまくいくことを確かなものにする」ことを目指そうとすることが Safety IIである (図2 参照)。

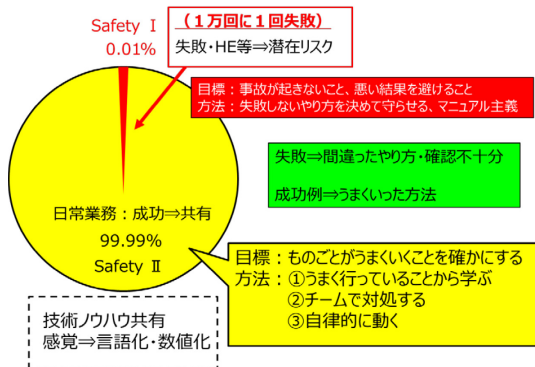


図2 新:安全管理 (Safety II)

3. モラル・コミュニケーション能力向上

3.1 エンドミーティングと懸案事項

労災を未然防止する活動は、JT (J-tech) 未然防止メソッドフロー (図3 参照) に準じ実施している。作業後のエンドミーティング時に現場指揮者 (安全担当) 等が主体となり、作業員全員でその日の業務を通しての不安全環境箇所や不安全行動等の潜在リスクの抽出を行い、ヒヤリハット情報提供シートに反映・集計している (図4 参照)。

本シートには是正処置欄を設けており、潜在リスクの改善方法の記載が可能となっている。

具体的には正内容や危険箇所の抽出に至る記載事項の件数は増えてきており、潜在リスクの抽出内容のレベルが向上している。

次年度以降うまくいっていることの抽出を更に定着させていくことを目標としている。これらの活動により危険の感受性向上と危険の敢行性低減を促進し、潜在リスクを共有することで日本原燃安全方針にある不安全行動・不安全環境の徹底排除および労災未然防止に努めた (図5 参照)。

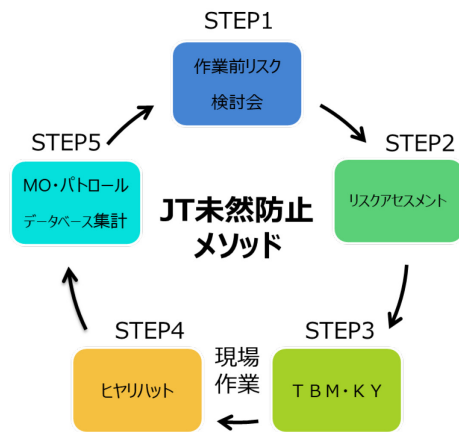


図3 JT未然防止メソッドフロー

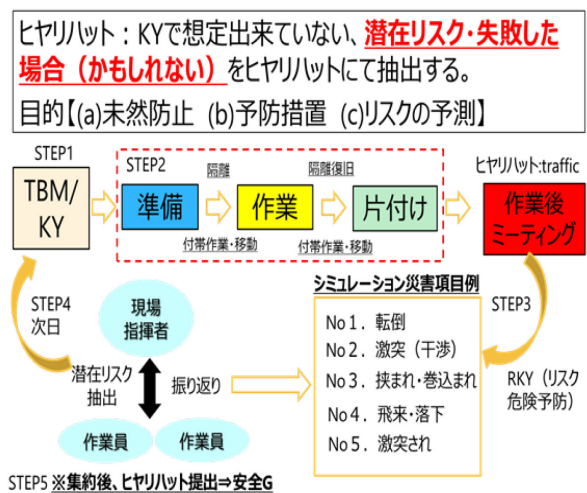


図4 エンドミーティング概要

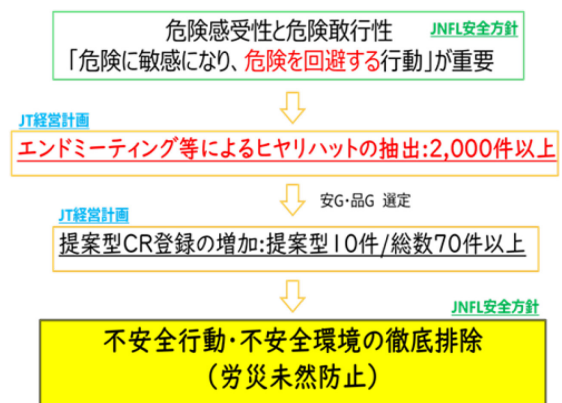


図5 エンドミーティング等による労災未然防止活動

3.2 コミュニケーション (モラル向上)

原子力安全を担う当社が、コミュニケーション能力とモラルの向上を目的とし、2021年度から労災未然防止活動として、コミュニケーションキャンペーン通称「コミュニケーション」を実施している (図6 参照)。

活動内容は、あいさつ運動、褒める文化の醸成活動、ラジオ体操の意義向上活動、近隣の美化活動等で、地域の方々の期待に応える企業文化を目指し、社員全員が認識し活動を継続している。

最終的には、安全行動の認識⇒意識化⇒習慣化の順にレベルアップし、最終的には安全・品質の最高水準の行動を無意識に出来る（習慣化する）ことを目的としており、社員一丸となって取り組んでいる（図7参照）。

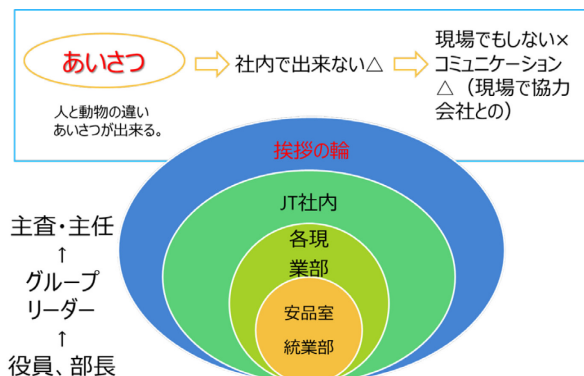


図6 コミュニケーションイメージ

2021年度	キャンペーン	2022年度	キャンペーン
4月	—	4月	あいさつ運動・美化活動
5月	—	5月	要領書携帯強化
6月	—	6月	熱中症防止
7月	—	7月	しっかりラジオ体操
8月	—	8月	エンドミーティング活動
9月	あいさつ運動（キックオフ）	9月	あいさつ運動・美化活動 ～秋の清掃活動～
10月	しっかりラジオ体操	10月	しっかりラジオ体操
11月	ヒヤリハットキャンペーン	11月	ヒヤリハット
12月	ほめほめキャンペーン	12月	ほめほめ（ありがとう）活動 ～インセンティブ/コイン～
1月	転倒防止キャンペーン	1月	転倒防止活動
2月	転倒防止キャンペーン	2月	転倒防止活動
3月	インシデント周知	3月	インシデント周知

図7 コミュニケーションスケジュール

4. まとめ

今後エンドミーティングおよびコミュニケーションを認識から意識化し、さらに習慣化へと定着させ、恒常的に継続させて、安全管理（Safety I）からネクストステージの新：安全管理（Safety II）を目指す。

社内コミュニケーション能力およびモラルの向上を図ることは、原子力安全を担う当社の安全・品質の向上への取組みにとって重要であり、年度毎に当該活動をグレードアップし、モラル・コミュニケーション能力の向上に努めたい。

参考文献

- [1] 「レジリエンスエンジニアリングの安全マネジメントへの応用のための課題と実践セーフティⅡを目標とする安全マネジメントの実践」、《株式会社安全研究所 芳賀 繁、日本原子力学会誌 Vol.63, No.10(2021)



河野 亮
 (株)ジェイテック
 安全・品質統括室 安全グループ